

久御山中央公園再整備検討委員会(令和4年度 第1回)

<議事概要>

日時	令和4年7月13日(水)18:00~20:00
場所	役場1期庁舎4階特別会議室
参加者	別紙の通り

No.	議事
1	<p>委員長の選出並びに職務代理者の指名について</p> <p>⇒出席委員から山口委員(まちなにわ構想を提案、まちなにわ構想推進PJに参画)を推薦し、全員が賛同</p> <p>⇒山口委員長より、武田委員を職務代理者に指名</p>
2	<p>「再整備基本計画」策定に向けた経緯・背景・検討課題について</p> <p>⇒事務局(久御山町)から説明</p>
3	<p>本委員会の進め方について</p> <p>⇒事務局から説明</p>
4	<p>住民ニーズの把握について</p> <p>⇒事務局から説明</p>
5	<p>意見交換(久御山中央公園に対する思い等)</p> <p>⇒事務局(久御山町)から説明</p> <ul style="list-style-type: none"> • 中央公園の近所に住んでいるが、子どもが大きくなると、公園を利用する機会が減ってしまった。安満遺跡公園を訪れたが、素晴らしい公園だった。水や砂を自由に使えるような場所だった。このような場所があれば、中央公園ももっと利用者が増えると思う。 • SDGsや脱炭素を取組んでいく必要性は全員が理解はしていると思うが、取組みには温度差がある。未来の子どものために行動を改めている人もいれば、現在の行動を改善する余裕が無い人もいる。未来の子どものために必ずしも犠牲を払う必要はなく、例えばスポット照明にすることによって、節電になると同時に、部屋の雰囲気良くなる等、脱炭素だけではないメリットのある取組みをして行けると良い。久御山町はコンパクトであるため、みんなで一丸となって他の市町村ではできない取組みができるのではないか。中央公園が、新しい生き方の提案、新しい発見、情報交換の場になってくれると良い。 • 子どもの頃の原体験が重要だと考えており、これが近隣の市町村になってしまうともったいない。町内で遊ぶことを通じて、町民としての意識が生まれると良い。 • 委員として、楽しみにしている。中央公園の再整備にあたって、安心安全が最も重要になると思う。安心安全かつ、心が豊かになるような、バリアフリー社会を目指した公園整備が理想的。できることとできないことがあると思うが、何を基準に取捨選択をするか、検討する必要があると感じた。

No.	議 事
	<ul style="list-style-type: none"> • 色々な機能を持たせるのも良いが、それよりも「これだけはよそに負けない」というインパクトのある公園づくりをしていきたい。 • こういった委員会は初めて。現在の中央公園はスポーツが出来る良い場所だが、雨が降るとほとんど使えない。水はけを良くする等、使いやすい公園となってほしい。明るく気軽に立ち寄りやすい雰囲気になると、利用が増えると思う。 • KUMIDAN では、再整備に向けた実証実験の一環として、町建設課に手伝ってもらいながら、楽しくイベントを実施している。完璧な公園を作るのではなく、住民が自由に考えて自由に活動できるような公園を作っていくようにしたい。仕掛けづくりの段階で止めてもらった方が、住民の主体性・多様性が生まれやすいと思う。 • 都市下水路の近隣に住んでいる。水路横の遊歩道は草が生い茂っている状況である。公園だけにスポットを当てるのではなく、遊歩道を整備してベビーカーが通れるようにする等して、公園にアクセスしやすくし、公園以外の施設と公園を結ぶことで、公園の利用増につながるのではないかと。 • まちのにわ構想推進PJから参加している。構想や出た意見がどんどん実現されているところを目の当たりにし、今後の活動にも非常に期待している。中央公園に行けば、子どもと一緒に楽しく過ごせるような場所になると良い。また、KUMIDANの楽しい企画を皆さんにも知ってもらいたい。賑わいづくりに貢献しており、素晴らしいと思う。 • 従業員に聞くと、中央公園に行ったことがある人、知っている人が非常に少なかった。従業員の内、わずか1%程度が久御山町在住で、それ以外の町外在住者は、仕事をする場所と捉えているようだ。子どもが大きくなった人にとっては、マルシェ等のきっかけがあると公園に訪れやすくなる。大人も子どもも学べる公園(自給自足体験、テント設営体験、防災体験等)になると良いと思う。イベント等をきっかけに、人と人が繋がる公園になることを期待する。企業としては、人材不足に悩まされているため、交流のきっかけになると嬉しい。 • 施設や機材を完成させてしまうと飽きてしまう。ハード面は変化させ続けることは難しいので、ソフト面も含め、飽きのこない成長し続ける公園になってほしい。昨今大変な情勢が続いているので、心身ともにリフレッシュできるような公園になると良い。 • マルシェに参加し、成果を感じている。現在の中央公園はある一定の年代の人のみが利用している状況なので、いろいろな取り組みをすることにより広く利用されると良い。遊具は人気だが流行り廃りがある。親としては、子どもを放っておいても安心して遊ばせられる公園だと、子どもに遊びに行きたいと言われても行きやすい。 • まちづくりセンターの委員もしている。あれもこれも欲しいとなるが、限られた面積で実現できるものを考えていきたい。体も心も和む場所になるよう、緑が多く、人に優しい(木陰、ベンチ、安心安全)公園を目指したい。久御山町の木・花を意識して取り入れ、久御山町にふさわしい公園にしたい。中央公園内には荒見苑があり、主にシニア世代の憩いの場となっている。旧公民館でされていた高齢者主体のサークルが活動されているが、公園の面積が限られていることを考えると、サークル活動をまちづくりセンターに集約することを検討してはどうか。個人的な意見であるが、様々な世代が活躍、交

No.	議 事
	<p>流する公園整備を目指す中で、荒見苑もより多くの人に利用してもらえるよう、あり方を検討する必要があるのではと考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <p>非常に良い意見がたくさん出たと思う。子ども(子育て・教育)の話が多く出た。子どもの教育にとっては、大人が遊んでいる背中を見せることが重要だと思っている。KUMIDAN の活動を等見せることで、大人になっても住みたい、大人になって帰ってきたいという意識に繋がる。子どものための遊び場も必要だが、大人の社会を見せる場所にもなると良い。専門的にはリスクとハザードという言葉を使うが、本当に危険なハザードは取り除いて安全に遊べるようにするべきだが、ある程度のリスクは刺激となって子どもの成長につながるという考え方もあるので、子どもにとって良い刺激は残すことも重要。面積に限られた公園なので、中華井ぶりのような多機能を詰込んだ公園にならないよう、久御山町らしい、きらりと光る特徴があると、流行り廃りに影響されない公園になる。ハードを作りこみすぎず、どう使うかを利用者が考える余地がほしいという意見もあった。安満遺跡公園では、フルメイドのエリア(整備の最終イメージまでを完成させるエリア)とハーフメイドのエリア(空間の骨格となる地形造成や各種インフラ等の基盤整備を行い、時代やニーズに合わせ、公園づくりをすすめるエリア)を設けた。ハーフメイドのエリアは、これから住民の方と作り続ける。泉佐野丘陵緑地では、手つかずのコラボレーションエリアを作り、住民や企業と連携しながらゆっくりと更新し続けることを大切にしている。初めから作り切ってしまうのではなく、緩やかに時間をかけながら作っていくエリアを設けることも一つの手法となる。シンガポールは、これまで「garden in the city」だったが、現在は「city in the garden」を目指し、拠点となる公園を緑道で繋いでまち全体が公園となるようにしている。公園だけではない、公園周辺を含んだ緑のネットワークのような視点も面白い。どんな公園を作るかに注目しがちだが、公園整備によりどんな暮らしをしたいかを考えることが重要である。計画段階で意識しなければならないのは、誰のどんな変化を想定するかということ。変化に関連して、進め方の資料の4ページの考え方が非常に重要になる。この4ページが目的になるのではないか。ハードだけでなく、ソフトや仕組みに手をかけておくことで、公園の価値を継続的に向上させることに繋がる。本日のこの会議の場で、すでに公園づくりが始まっている。委員以外の住民にも知ってもらい、活動を広げ、長く続けていくことが大切。アンケートは、公園づくりのプロセスにおいて、ファンを増やすチャンスになると思った。未来の公園に関する設問が、少し施設先行型になっていると感じるので、もっと実現したい暮らしや変化等を聞いても良いのでは。空間を若干後回しにして、プロセス・アクティビティを先に検討し、あとからそれを実現するための空間整備を考えるイメージ。</p> <p>アメリカのコミュニティガーデンを調査したことがあるが、もとは更地だった場所に、自分たちでエディブルガーデンや図書館を作った事例がある。この事例のように活用の余地があると、面白い活動が生まれる。常にクリエイティブなことが起きるわくわく感がある。活動やマネジメントのサポートするNPOや自治体が充実しているので、日本にもこのような体制が重要だ。中央公園にもこのような余白を残し、チャレンジングな取り組みができると非常に面白い。必要なインフラは作りこみつつ、余白をどの程度残すかは委員会や計画の中でしっかりと検討したい。マネジメントのレベル感を掘り下げることが重要。自由な広場があったらどうということをしてみたいか、何かしたいと思った時にどういったサポートがあ</p>

No.	議 事
	<p>ったら実現できますかと言った聞き方ができると良い。特色があり、柔軟に対応できる公園になると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 面白い事例を挙げておく。神戸のネイチャースタジオ(小学校跡地をリノベーションしたコミュニティ型複合施設)は、グラウンドの植栽を全て食べられるものにして、環境教育にも繋げている。 • 他の事例として、堺市大蓮公園も良い。ニュータウンの中にあるP-PFIでレストランや私設図書館があり、マーケットやデイキャンプの開催をしている。もともと盛んだった市民活動と事業者がタッグを組んで上手くいった事例。 • 中央公園は、「官民連携」で進めることを考えているが、ここでは行政/民間事業者/住民団体の3階建が大事と思っている。(事務局(久御山町))
6	<p>その他 ⇒事務局(久御山町)から説明</p>

以 上